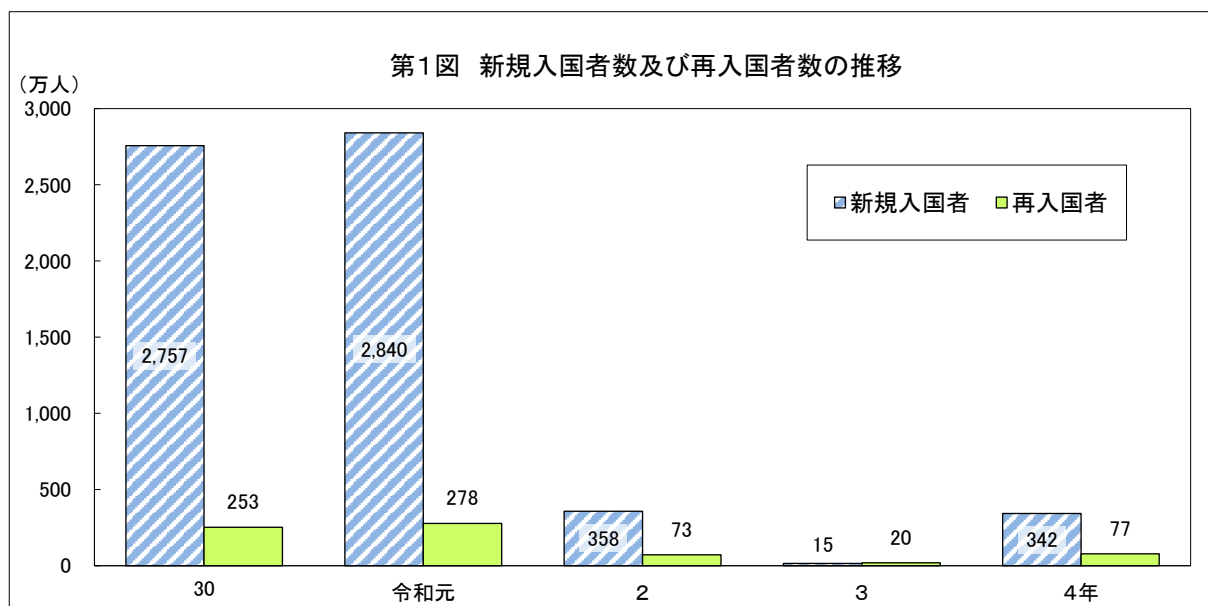


## 結果の概要

### 1 外国人の入出国

#### (1) 外国人の入国状況

平成30年以降の新規入国者数及び再入国者数の推移は、第1図のとおりである。令和4年における外国人入国者数は、4,198,045人（新規入国者数3,423,531人、再入国者数774,514人）であった。令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、航空機及び船舶の運航数が大幅に減少していたが、令和4年3月以降、外国人の新規入国制限や入国者総数の上限を段階的に緩和したことなどにより、前年に比べ増加した。



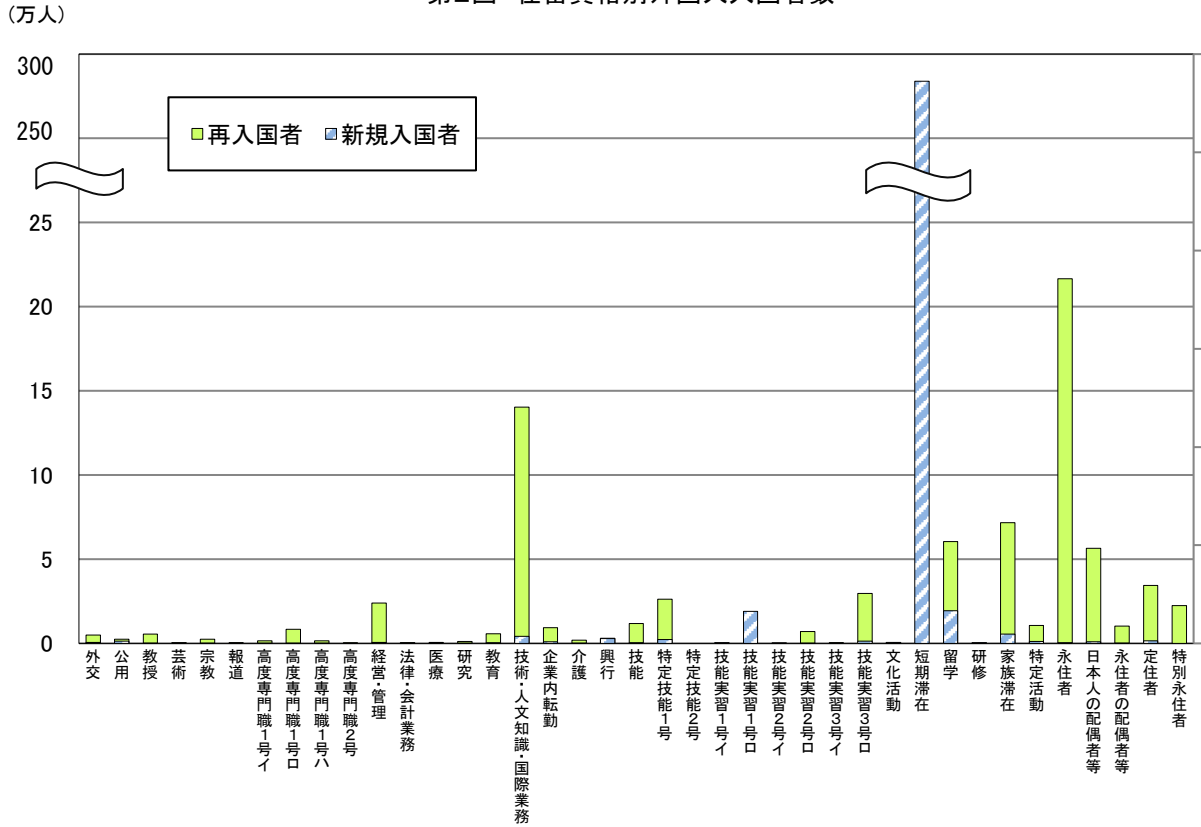
#### (2) 在留資格別外国人入国者数

令和4年における在留資格別外国人入国者数（新規入国者、再入国者別）は、第2図のとおりである。新規入国者で最も多いのは、「短期滞在」の2,861,731人で、新規入国者全体の83.6%を占める。次いで、「留学」が167,128人（4.9%）、「技能実習1号口」が163,882人（4.8%）と続いている。一方、再入国者で最も多いのは、「永住者」の216,519人で、再入国者全体の28.0%を占める。次いで、「技術・人文知識・国際業務」が140,379人（18.1%）、「家族滞在」が71,683人（9.3%）と続いている。

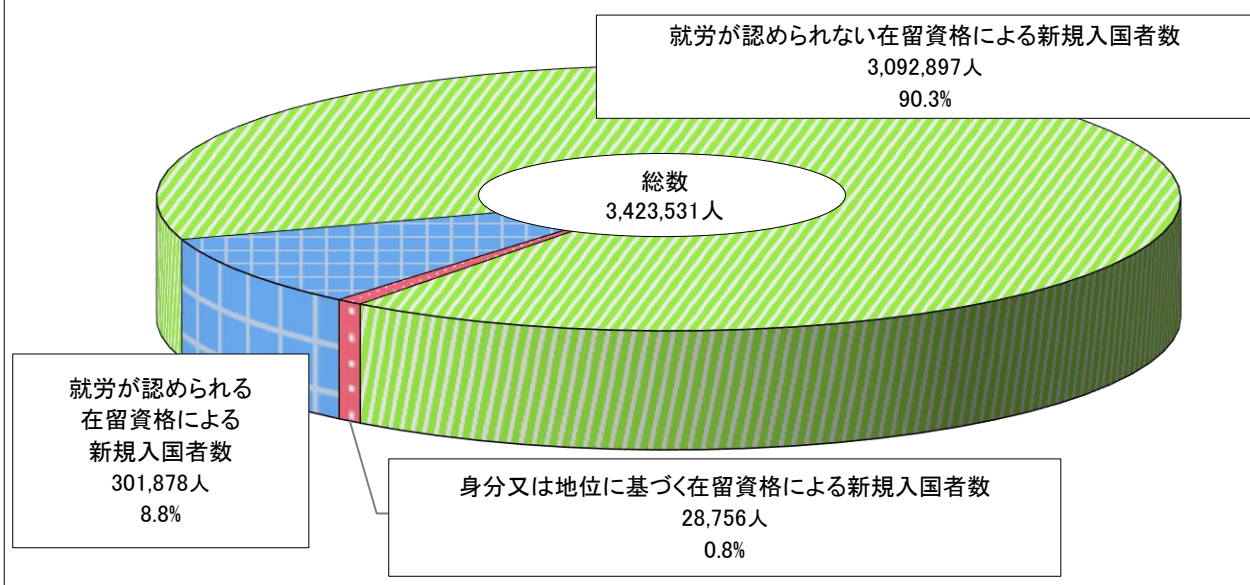
在留資格は、本邦における活動に基づくものと、本邦における身分又は地位に基づくものに大別され、活動に基づく在留資格は、更に、各在留資格に定められた範囲内での就労が認められるものと、就労が認められないものに分かれている。

令和4年の新規入国者を上記の区分で見ると、活動に基づく在留資格及び身分又は地位に基づく在留資格の構成比は第3図のとおりである。活動に基づく在留資格のうち、就労が認められない在留資格による新規入国者数は、3,092,897人で、全体の90.3%を占める。

第2図 在留資格別外国人入国者数



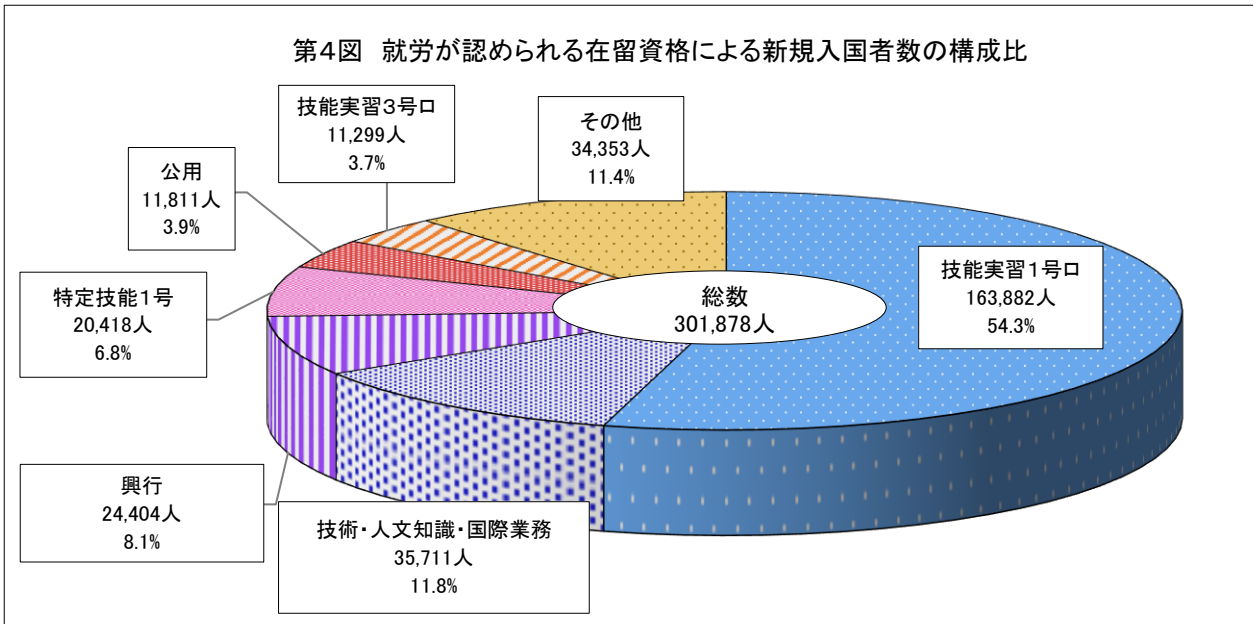
第3図 在留活動及び身分・地位に基づく在留資格による新規入国者数の構成比



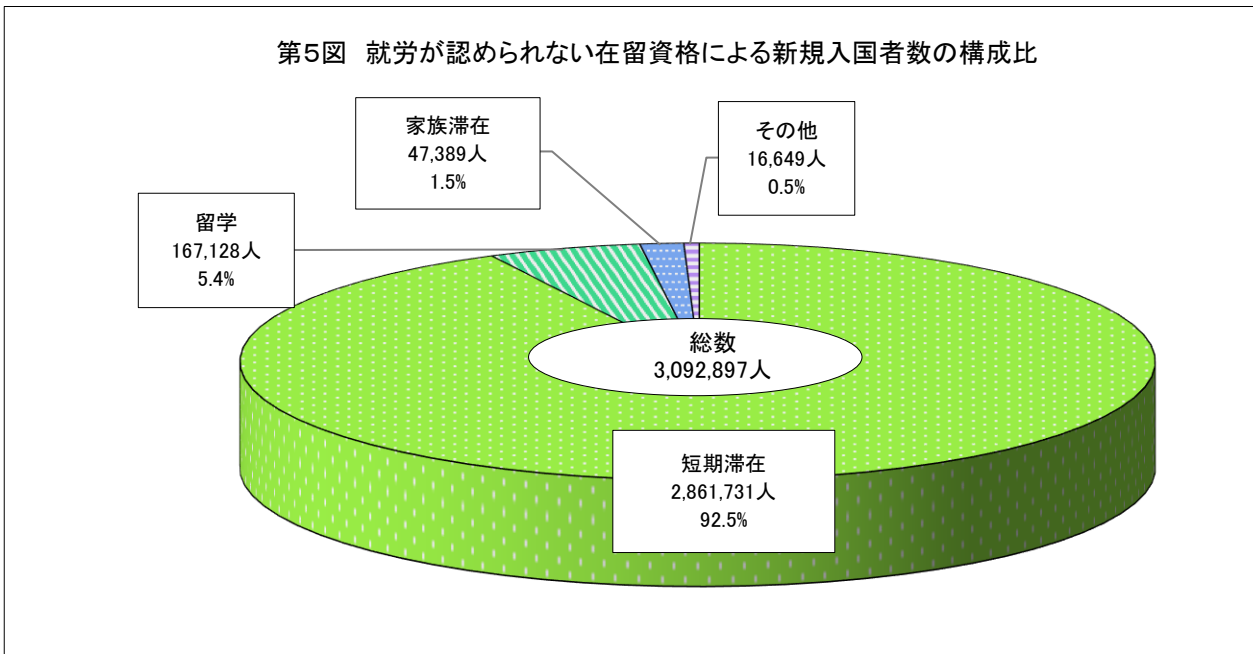
また、それぞれを在留資格別に区分した図は、第4図から第6図である。

就労が認められる在留資格による新規入国者で最も多いのは「技能実習1号ロ」の163,882人で、全体の54.3%を占める。就労が認められない在留資格による新規入国者で最も多いのは「短期滞在」の2,861,731人で、全体の92.5%を占める。身分又は地位に基づく在留資格による新規入国者で最も多いのは「定住者」の13,628人で、全体の47.4%を占める。

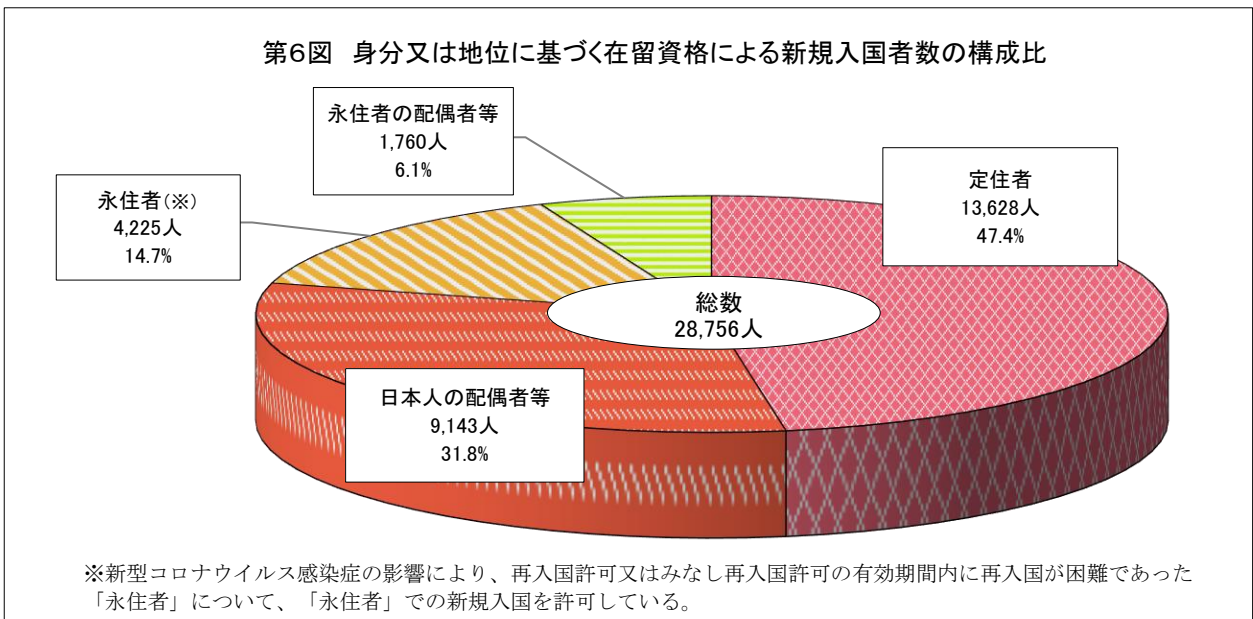
第4図 就労が認められる在留資格による新規入国者数の構成比



第5図 就労が認められない在留資格による新規入国者数の構成比



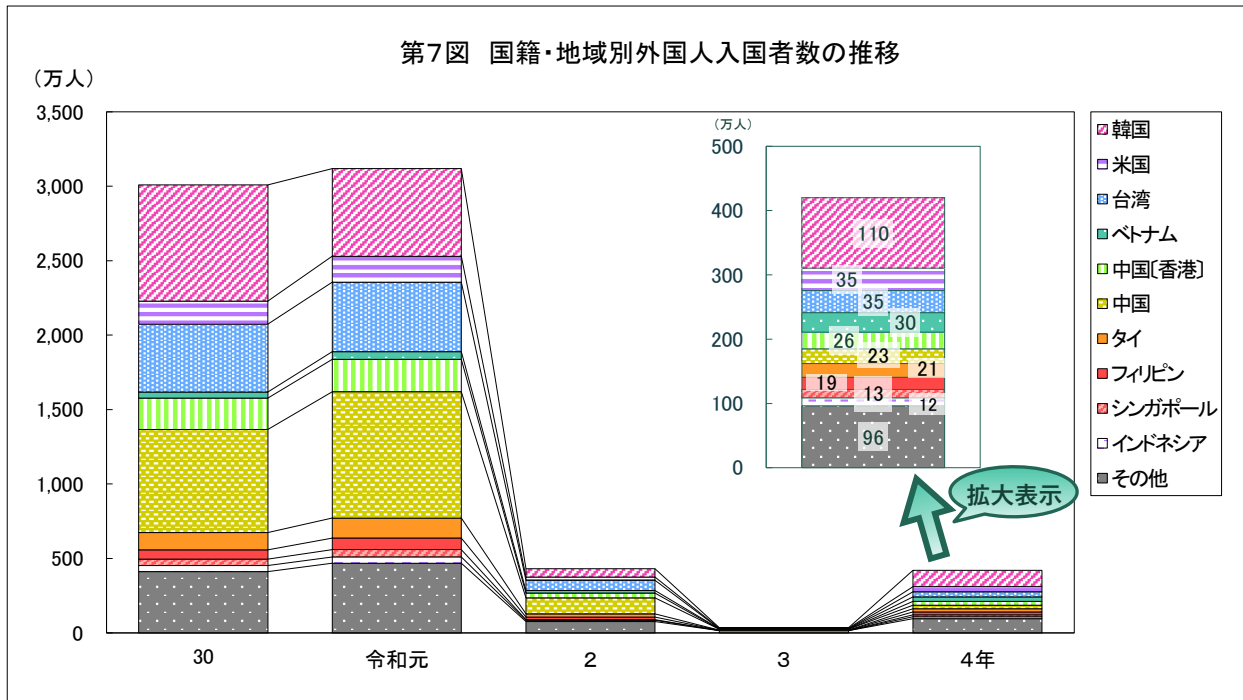
第6図 身分又は地位に基づく在留資格による新規入国者数の構成比



※新型コロナウイルス感染症の影響により、再入国許可又はみなし再入国許可の有効期間内に再入国が困難であった「永住者」について、「永住者」での新規入国を許可している。

### (3) 国籍・地域別外国人入国者数の推移

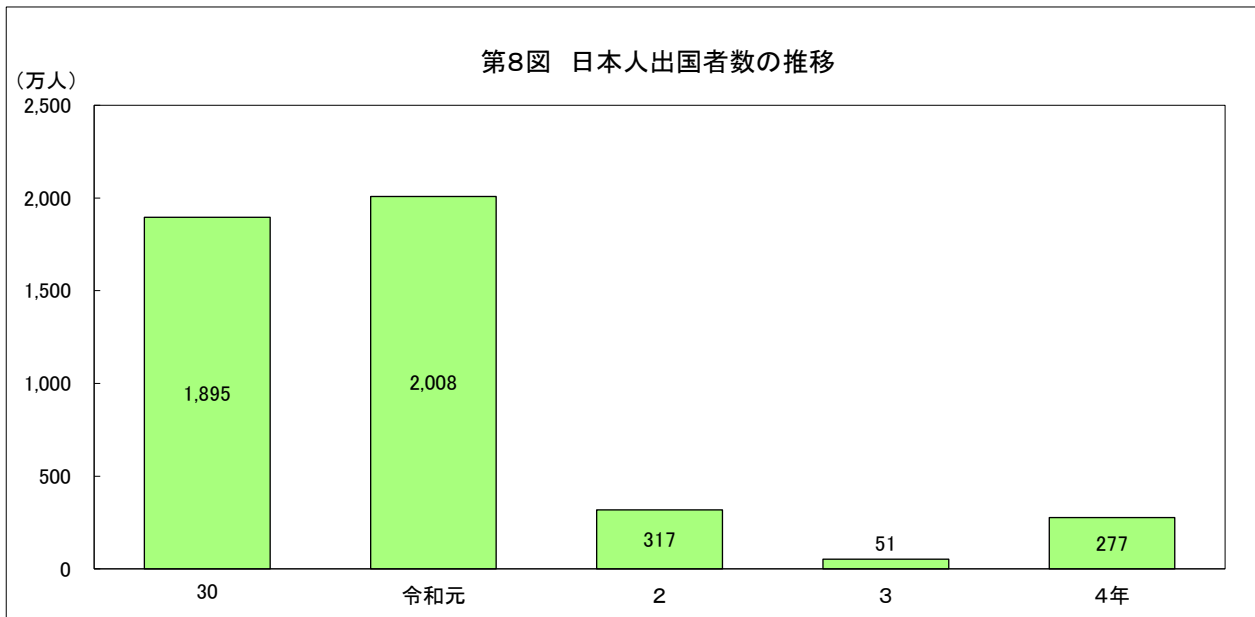
平成30年以降の国籍・地域別外国人入国者数の推移は、第7図のとおりである。令和4年の入国者数は、韓国が1,095,702人で最も多く、次いで、米国が345,974人、台湾が345,038人、ベトナムが301,394人と続いている。これを対前年増減率で見ると、入国者数上位10か国のうち、中国〔香港〕が17,397.9%（256,793人）増と最も高く、次いで、シンガポールが11,954.2%（132,333人）増、台湾が3,909.3%（336,432人）増と続いている。



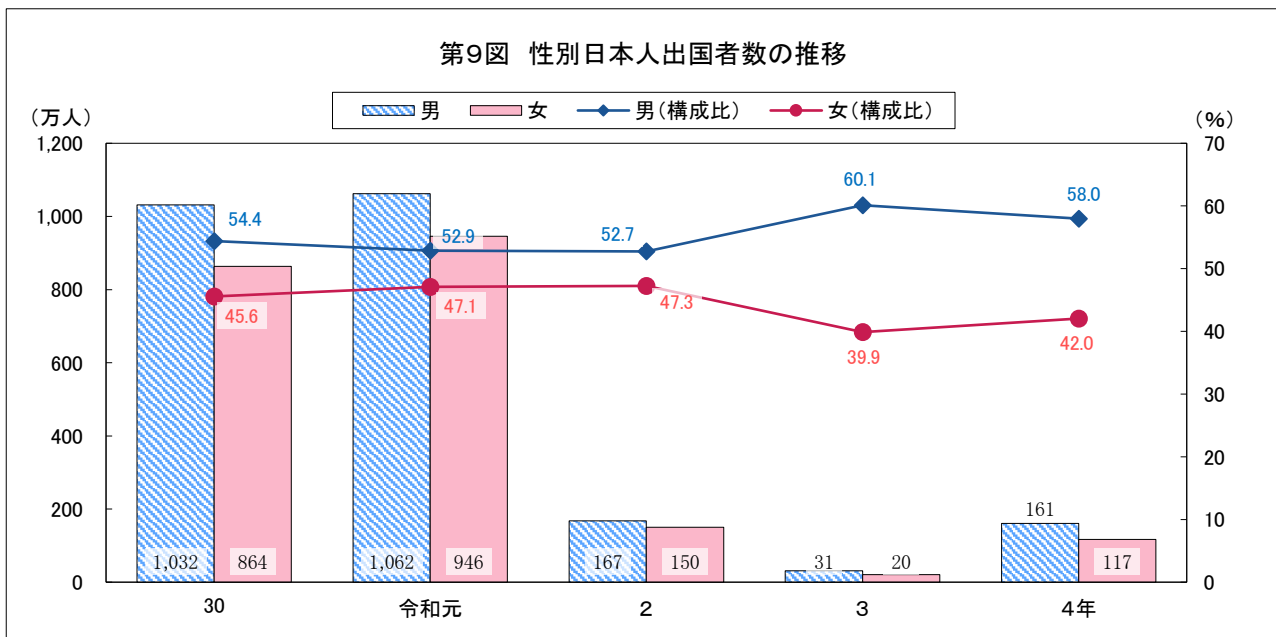
## 2 日本人の出帰国

### (1) 日本人の出国状況

平成30年以降の日本人出国者数の推移は、第8図のとおりである。令和4年における日本人出国者数は、2,771,770人であった。令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、航空機及び船舶の運航数が大幅に減少していたが、令和4年3月以降、外国人の新規入国制限や入国者総数の上限を段階的に緩和したことに伴い、航空機及び船舶の運航数も次第に増加したことなどにより、日本人出国者数は、前年に比べ増加した。

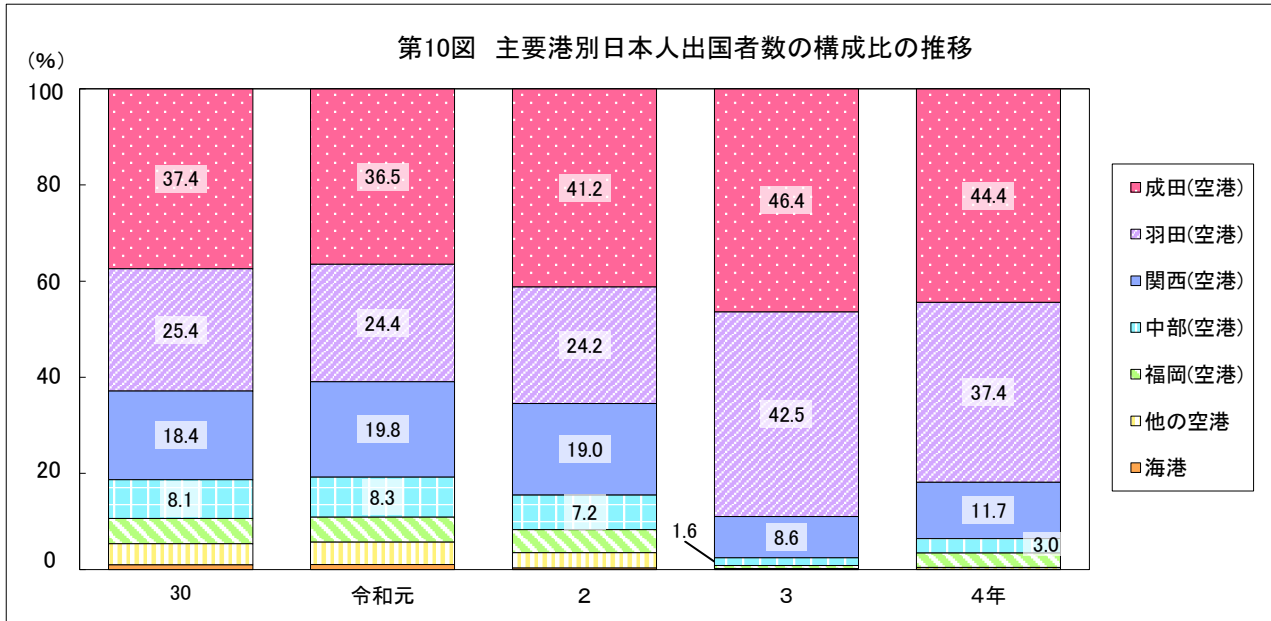


次に、平成30年以降の性別日本人出国者数の推移は、第9図のとおりである。令和4年の男性の出国者数は、1,606,704人、女性の出国者数は、1,165,066人となった。これを構成比で見ると、男性が58.0%、女性が42.0%となった。



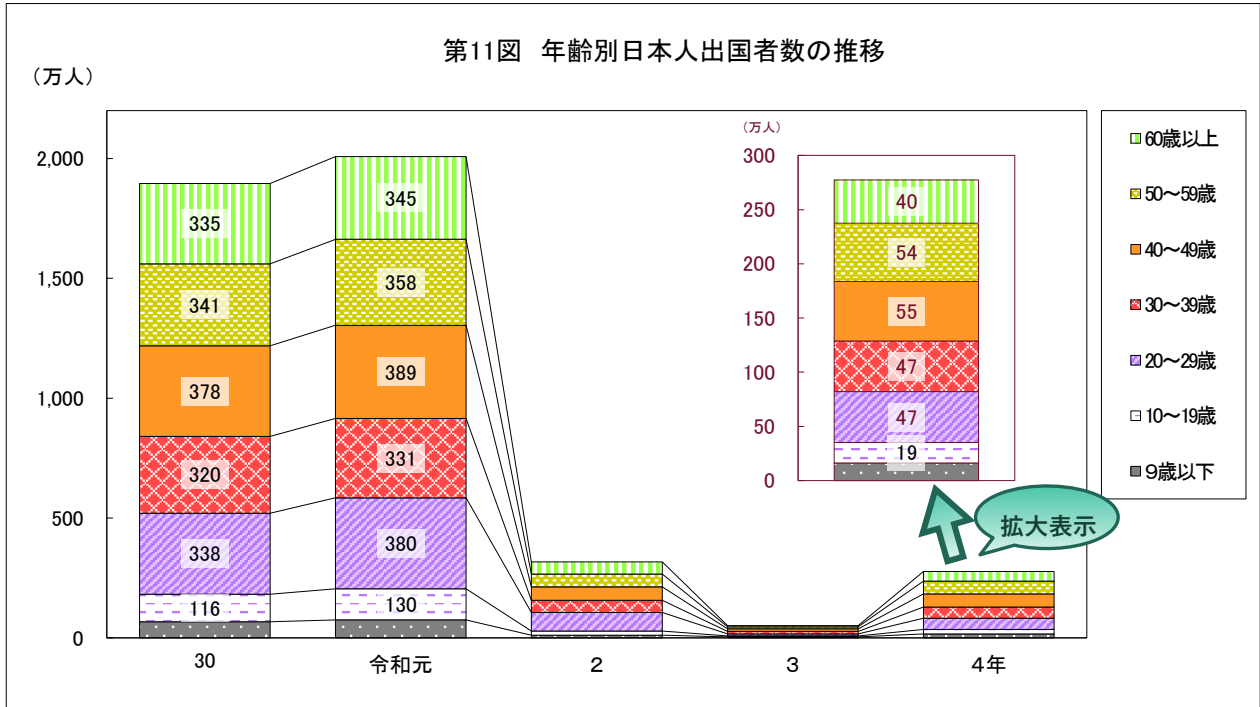
## (2) 主要港別日本人出国者数の推移

平成30年以降の主要港別日本人出国者数の構成比の推移は、**第10図**のとおりである。令和4年における空海港別出国者数については、空港からの出国者数が2,769,788人で全体の99.9%を占め、海港からの出国者数は1,982人であった。港別では、成田（空港）が1,230,519人で最も多く、全体の44.4%を占める。次いで、羽田（空港）が1,037,314人（構成比37.4%）、関西（空港）が324,866人（同11.7%）、中部（空港）が83,680人（同3.0%）と続いており、これら4空港で全体の96.5%を占める。

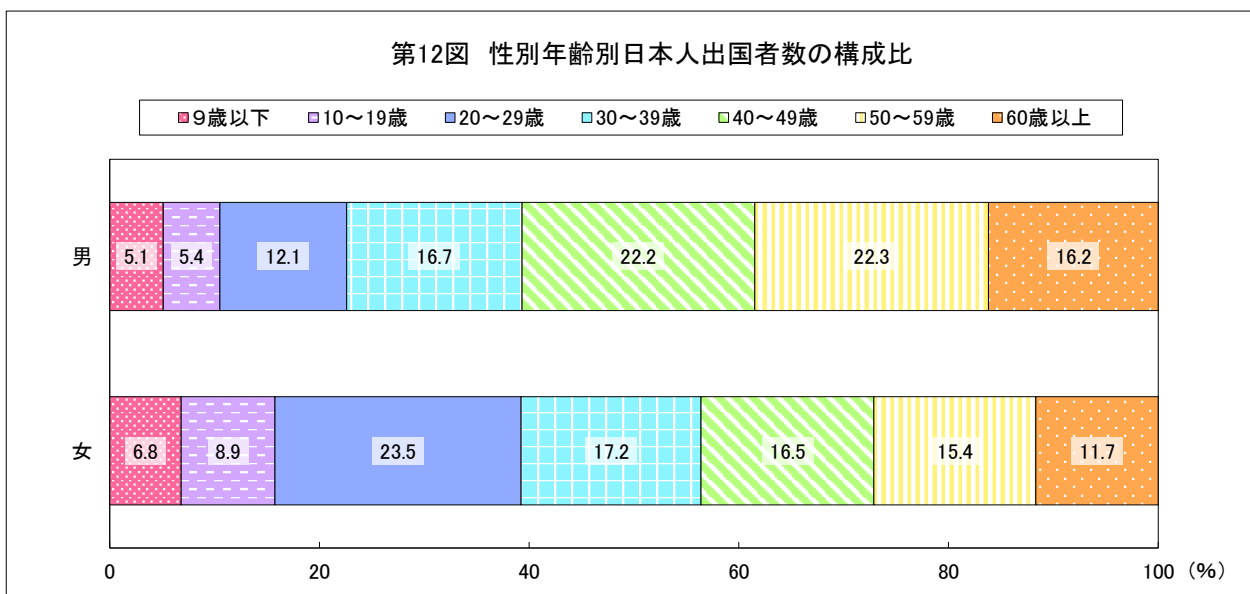


### (3) 年齢別日本人出国者数の推移

平成30年以降の年齢別日本人出国者数の推移は、**第11図**のとおりである。令和4年の年齢別出国者数について、対前年増減率で見ると、60歳以上が701.6%（346,817人）増と最も高く、次いで、50歳代が504.4%（449,076人）増、20歳代が454.0%（383,276人）増と続いている。

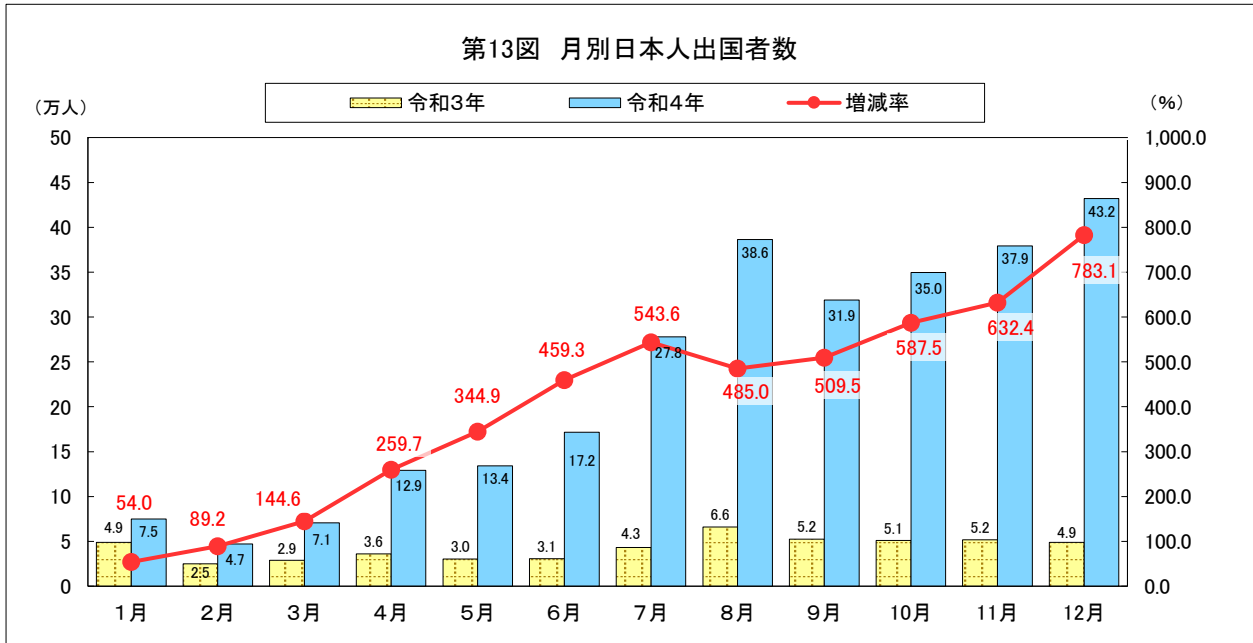


次に、令和4年の性別年齢別日本人出国者数の構成比は、**第12図**のとおりである。男性は、50歳代が22.3%（358,200人）で最も多く、次いで、40歳代が22.2%（356,575人）、30歳代が16.7%（268,806人）と続いている。一方、女性は、20歳代が23.5%（273,758人）と最も多く、次いで、30歳代が17.2%（199,868人）、40歳代が16.5%（192,019人）と続いている。



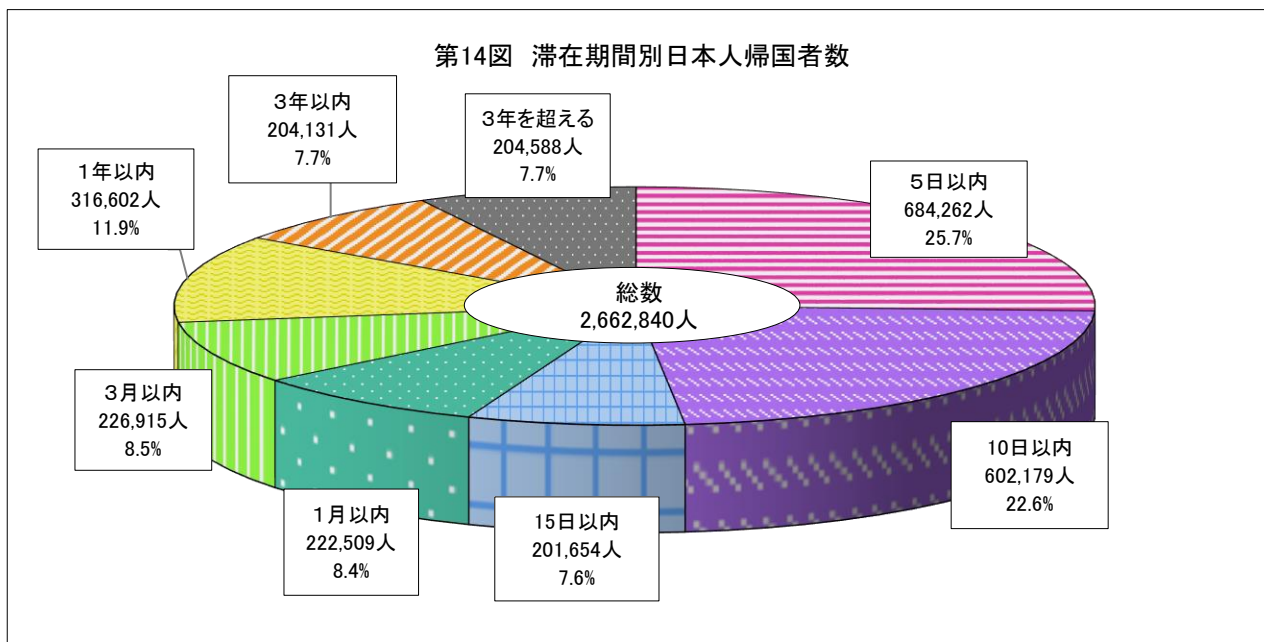
#### (4) 日本人の月別出国状況

令和4年の月別日本人出国者数は、第13図のとおりである。日本人出国者数が最も多い月は12月の432,193人で、次いで、8月が386,412人、11月が379,196人と続いている。また、前年同月と比較すると、全ての月で増加した。増減率で見ると、12月が783.1%増と最も高く、1月が54.0%増と最も低い。



#### (5) 滞在期間別日本人帰国者数

令和4年の日本人帰国者数は、2,662,840人で、海外における滞在期間別の内訳は、第14図のとおりである。滞在期間が5日以内の帰国者が25.7% (684,262人)、10日以内の帰国者が22.6% (602,179人)、15日以内の帰国者が7.6% (201,654人) となっており、これら滞在期間が15日以内の帰国者が全体の55.9%を占める。



(注) 本資料における各割合値 (%) は、表示桁数未満を四捨五入しています。